

職員による自己評価

A環境面

現在の利用状況では十分なスペースである  
ワンルームで個室はないが、パーティションで  
区切り、クールダウンなどの個別対応をしている  
事業所内はトイレを除いて床は段差がなくフ  
ラットである

B児童への支援内容

利用者のニーズをくみ取り、特性に配慮した活  
動をしている

C関係機関との連携

学校等との連携は、不十分である

D保護者への説明責任・信頼関係

送迎時や連絡帳・メールにて、日々の様子等に  
ついて保護者と相互のやり取りができている

E非常対応

緊急時のマニュアル確認や利用者参加の訓練  
を定期的実施している

保護者による評価

A環境面

活動スペースの確保についてはおおむね満足し  
ている

2階の事業所までスロープやエレベータがない

B児童への支援内容

活動内容には満足している

地域や他の児童クラブ等との交流の機会はない

C事業所からの情報発信

保護者会の開催や会報配布などはない

D非常対応

緊急時・防犯については、周知が不十分なとこ  
ろがある

E満足度

子どもは通所を楽しみにし、保護者も支援に満  
足している

事業所内での分析

【共通点】

- 事業所のある建物にはスロープやエレベータがなく、バリアフリーとは言えない
- 利用者の特性に配慮した活動をしている
- 災害や緊急時・防犯など安全面の保護者への周知が不十分である
- 苦情対応の体制の保護者への周知が不十分である

【相違点】

分析・検討してみても…

### 事業所の強み

○児童・保護者のニーズに合うような活動をしている。特に学習支援は、子どもの特性に配慮した手厚い支援をしている

### 事業所の改善点

- 学校や他の児童クラブ等との情報交換や交流の機会が少ない
- 災害・緊急時・防犯に関して保護者への周知が不十分などところがある
- 活動の情報発信を積極的にしていない

### 事業所の改善への取り組み

- 災害・緊急時対応や防犯等安全面を見直すとともに、定期的に保護者にお知らせする
- 学校・関係機関との情報交換
- 職員の専門性を上げる
- 会報やホームページなどで、活動内容を広報する

～自己評価を行って事業所としての感想など～

評価は改善のための貴重な機会と捉え、活動内容をさらに充実させるために生かしていきたい。  
職員全員が常に問題意識を持って支援活動に取り組みたい。

事業所名 プレップサポートセンター和田町  
担当者 管理者 細谷由夏